

材料&道具



参考資料：

『[おまめの豆本づくり](#)』 柴田尚美著

白泉社刊 2007年

『[手製本を楽しむ](#)』 柝折久美子著

大月書店 1984年

『[製本工房・美篤堂とつくる文房具](#)』

美篤堂 2010年

※表紙の裏打ち方法などは本を参照

材料

中身の紙（上質紙） 3.5×5cm・・・10枚

見返し紙（色画用紙くらいの厚さ）3.5×5cm・・・2枚

表紙布（木綿布に裏打ちしたもの）

花切れ・・・7mm幅2枚

しおりひも・・・7cm

表紙用ボール紙（厚さ1mmの厚紙）

今回はいらなくなった本の函を利用

3.8×2.5cm・・・2枚

3.8×0.7cm・・・1枚

寒冷紗・・・3×2.5cm（和紙でも代用可）

木工用ボンド

道具

刷毛（平筆などでも可）

裁縫用ヘラ

クリップ

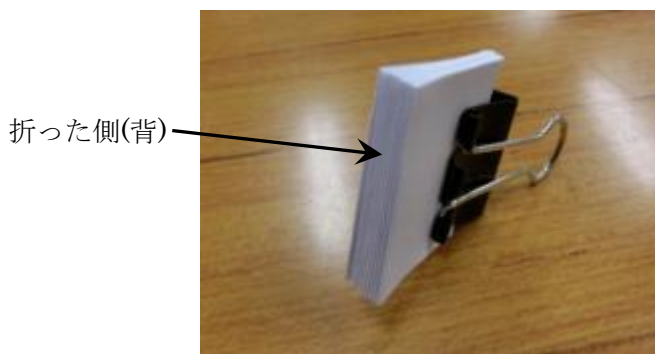
カッター・カッター台

作り方

① 中身の紙と見返し紙を二つ折りにします。



②きれいに紙の折り目を揃え、折りと逆の側をクリップで止めます。



③ 背固め

折った紙のすきまを埋めるような感じでボンドを塗りこみます



④見返し紙の折った側の片面にボンドをつけます。



⑤本体の両側に、向きを揃えて見返し紙を貼り付けます。



⑥背に寒冷紗をしっかりと貼り付けます。



⑦寒冷紗の余った部分にボンドをぬり、見返し紙に貼り付けます。



⑧背の上部にボンドをつけ、しおりひもを貼ります。

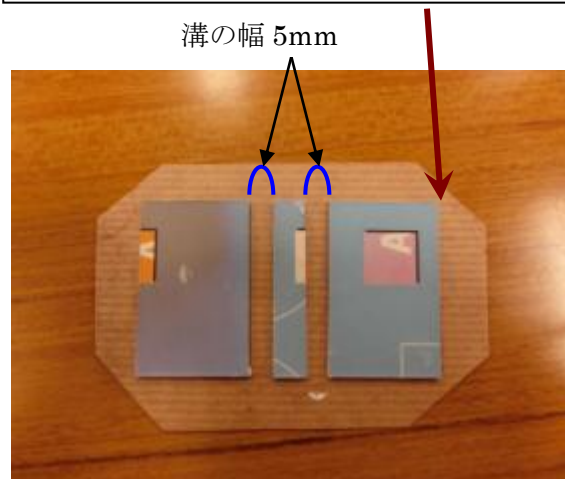


⑨背の上下に花布を貼り付けます。
(花布の糸がはさんでいる部分を背よりほんの少し上下に出します。)



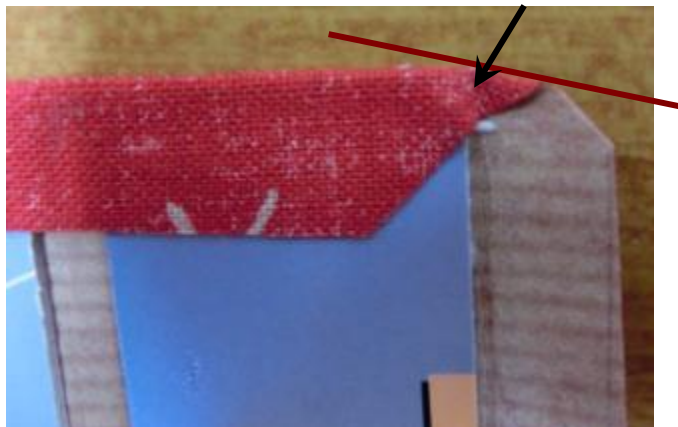
上下に少し出します。

⑩ ボール紙にボンドを塗り、表紙布の裏に貼り付けます (溝の幅は 5mm です)。
さらに、表紙の四隅をボール紙角から 3mm 程度残して、斜めにカットします (スタンプラリーではあらかじめカットしていました)。

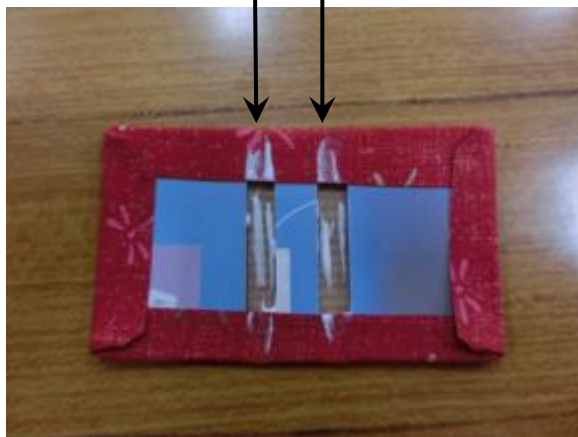


⑪ まず、表紙の上下を先に貼り付け、次に（爪で内側に折り込むように）角の処理をします。続いて左右を貼り付けます。

左右が貼り付けやすいよう、爪で角を少し押し斜めに



⑫ 溝の部分にボンドを塗ります。



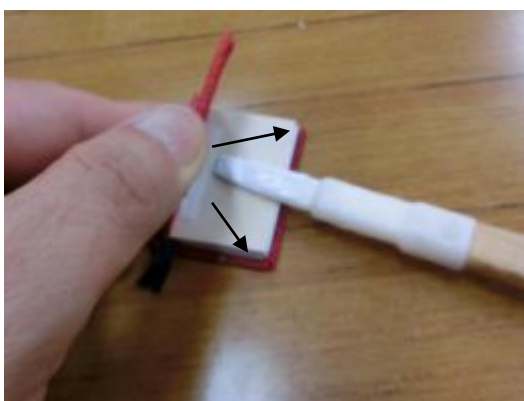
⑬ 表紙の左側に中身をのせ、右側をかぶせます。



⑭ ヘラで溝をつけ、表紙と中身をしっかりとくっつけます。



⑮ 表紙を半開きにして、一番外側の見返しにボンドを薄く放射線状にのばしてぬります。表紙を閉じ貼り付け、反対側も同じく貼ります。はみだしたボンドは急いでふきとります。



完成!!



～おことわり～

スタンプラリーでは20分程度で作ることができるよう、のりをすべて同じボンドにするなど、工程を省略しました。本格的に作りたい場合は、ぜひ参考資料を読んでください。

※参考※

豆本の表紙（表紙布：木綿布に裏打ちしたもの）について

裏打ちした絹布も売っていますが、
今回は、木綿のプリント布に紙を貼る「裏打ち」加工した表紙布を使用しました。

「裏打ち」とは着物などの「洗い張り」のように、

- 1) 板に布を水張りする
 - 2) 布の上になすくのり（大和ののりとボンドをまぜ、薄めたもの）をひいた紙（和紙やハトロン紙）を貼る
 - 3) 乾かす
- といった作業です。

少し面倒な作業ですので、各種の本を見ながらやってみると、わかりやすいのではないかと思います。

裏打ちの方法は柄折久美子『[手製本を楽しむ](#)』『[えほんをつくる](#)』（どちらも大月書店）などを参考にしています。

また、柴田尚美『[おまめの豆本づくり](#)』（白泉社）、『[製本工房・美篤堂とつくる文房具](#)』（河出書房新社）などにも載っています。

表紙は、紙を使ってもできますが、その場合は見返し紙に使うような少し丈夫な紙（画用紙より質のよい感じ）を使い、溝を作るとき、へらでこすりすぎないように注意しながら行ってください。